

# エー A ジー G ファイブ 5 だよ

## 現地小学校の児童への日本語指導と交流活動

高雄日本人学校長 高橋友幸

台湾にある高雄日本人学校は、台北・台中日本人学校とともにAG5プロジェクトに取り組んで2年目となります。本校では、現地校である中正國民小學（以下、「中正國小」）の中で開校しているという特色を活かし、中正國小と様々な交流活動を行っています。その中核となっているのが、本校の教員が中正國民小學の児童へ日本語指導を、逆に中正國民小學の教員が本校の児童生徒へ中国語指導を、相互に行っていることです。このような交流を通して、本校の児童生徒はもちろん、中正國民小學の児童も将来のグローバル人材として、ともに成長していってくれることを期待しています。

高雄はもともと親日的な土地柄ですが、本校が行っている交流活動によって、本校の児童生徒や教職員はもとより、日本人や日本に理解を示してくれる台湾の方々の輪は、少しずつですが確実に広がってきています。



### 中正國民小の校内へ移転した経緯

本校は、昭和四十四年に開校し、次年度で開校五十年を迎える歴史のある日本人学校です。

本校の児童生徒数は、昭和六十三年の二六六名を最高に、その後徐々に減少し、ここ数年は一〇〇名前後で推移しています。かつては独自の校舎で教育活動を行っていた本校でしたが、校舎の老朽化と児童生徒数減少に伴う財政状況の悪化によって校舎を維持できなくなり、平成二十六年九月に現在の、現地校である中正國民小校舎の一棟「信義楼」を借り受け移転しました。

一方、中正國民小は過去最高で約五〇〇〇人の児童が在籍していましたが、台湾でも少子化は著しく現在の児童数は一四〇〇人程度にまで減少してきています。そのため空き教室が数多くあり、本校と賃貸借契約を結ぶことは意味のあることでした。

### 現地校の中で学校経営を行う工夫

中正國民小には、地下一階から地上四階までの五階建ての校舎が五棟あり、その四棟目の「信義楼」を本校が借用しています。

一般的に日本人学校は、高い塀やフェンスで学校を囲い、侵入者を防

いで児童生徒の安全を確保しますが、中正國民小の校舎五棟は全て、一階から四階まで通路でつながっていて、誰でも自由に行き来できる構造になっています。

また現地消防法の関係で、本校の棟だけを扉やフェンスで仕切り、独立した空間として囲うことができなかったため、児童生徒の安全管理の考え方を根本的に変える必要がありました。

本校児童生徒の安全管理にかかわる基本的な考え方は、高雄日本人学校を「開く」ことにより、その安全を確保するというものです。

中正國民小の児童や教職員と同一の校舎の中で仲良く生活し、中正國民小の児童や教職員、保護者の方々に本校の存在や本校の児童生徒、教職員をよく知ってもらい、多くの目で見てもらうことによって本校児童生徒の安全を確保してきました。そのため、次のような活動を継続して行っています。

#### ① 中正國民小児童への日本語指導

中正國民小五・六年生に対して日本語指導を実施しています。本校への理解を深めることはもちろん、日本語や日本文化についての興味関心を喚起することができます。

#### ② 本校の児童生徒への中国語指導

中正國民小より四名の中国語講師を派遣してもらい、本校雇用の中国語講師とともに中国語指導を行っています。

#### ③ 朝の「あいさつタッチ運動」

登校時は本校の児童生徒の安全を確保するため、本校の教員は全員、歩道及び校門周辺で立哨指導をしています。その時、本校の児童生徒だけでなく、同じ校門から登校してくる中正國民小の児童とも分け隔てなく「あいさつタッチ運動」を行っています。挨拶は中国語の「ザオ（早）」と日本語の「お早う」を両方使いながら行っています。

#### ④ 交流活動の実施

毎年十一月に中正國民小と本校小学部の各学年がお互いに自己紹介し合うなどの交流活動を行い、児童同士



朝のあいさつタッチ運動

が直接触れあう機会を設けています。  
⑤毎週の事務調整会議の開催

両校の教育活動が問題なく円滑に遂行されるためには、体育施設の使用や学校行事の調整など、詳細な確認を行う必要があります。

毎週月曜日に本校からは校長、教頭、教務と通訳の四名、中正國小からは校長のほか、総務、教務、学務、生徒指導、事務の各主任が集い、調整会議を行っています。

#### ⑥文化交流会

両校の教員同士が顔見知りになり相互理解を深めるため、勤務時間終了後に年四回程度、おでん作りや餃子作り体験及び試食会などを持ち回りで開いています。

中正國小の新生保護者説明会において、本校の存在を新生の保護者に知ってもらうとともに、両校が仲良く生活する必要性を理解してもらうため、本校校長の中国語による挨拶を五年間続けてきました。

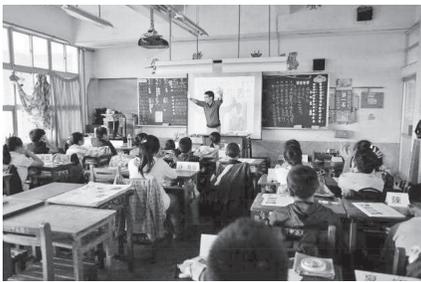
このような活動を継続してきたことにより、本校の存在は中正國小の保護者の方以外にも広く周知され、地域の方々にも受け入れられるようになってきました。現在、本校及び児童生徒や教職員に対してとても温かい視線が向けられています。

### 中正國小への日本語指導

#### ①日本語指導の実態

中正國小児童への日本語指導は九月から十二月にかけ、五・六年生を対象に一クラスあたり三時間、両学年とも十クラスあるため合計六十時間行っています。なお、自己紹介や挨拶を大切にして良好な関係作りに普段から努めています。

日本語指導の内容は、この四年間をかけて精選してきました。現在では、誰が担当しても同じ内容の指導ができるように、両学年とも各三時間分の指導略案や児童用ワークシート、パワーポイントスライドが作成されています。現在、AG5では、現場のニーズを確認しながら指導の充実を図るため、これらの教材の内



日本語指導の様子

容を精査する支援を始めました。  
主な指導内容としては、五年生の

一時間目「名札作りとあいさつ」、二時間目「じゃんけん、これだれの」、三時間目「知ってる知らない、好き嫌い」、六年生の一時間目「名札作りとあいさつ、が好きです」、二時間目「これ、あれ+形容詞の表現」、三時間目「いくらですか」となっています。子どもたちが興味を持つ日本のアニメや食べ物の画像、ゲーム等を活用したり、名前を日本語読みで呼び合ったりするなど、日本語に親しみを持てるよう工夫しています。

中正國小は学級数が多く、学級配置が複雑であるため、授業開始前に中正國小の児童が本校の職員室まで迎えに来てくれます。また授業中は中正國小の学級担任が教室内において、分からないことが生じた時や児童の反応が思わしくない時などにサポートをしてくれます。

日本語の授業を楽しみにしている子どもは多く、「日本人がただの外人でなくなつた」「ますます日本が好きになつた」「もっと日本語を勉強したい」「将来、日本に行きたい」等の感想が寄せられています。また指導している教員からは「台湾の授業スタイルや中国語の発音等、学ぶことが多い」「教師としてのスキル

キャリアアップにつながっている」等の声が上がっています。

#### ②派遣教員の中国語習得

中正國小への日本語指導は、赴任二年目及び三年目の派遣教員が行っています。

中正國小の児童に日本語指導を行うためには、必要最低限の中国語の習得が不可欠です。そのため、赴任一年目と二年目の派遣教員は、日本語指導や毎日の生活が滞りないよう中国語の習得に励んでいます。

校務終了後に週二回程度、語学学校に通い、赴任一年目の終了時には、ほとんどの教員が日常生活に必要な最低限の中国語を習得し、中正國小での日本語指導に活かしています。

③中正國小の教育課程上の位置づけ  
日本の学習指導要領にあたる台湾の「國民中小九年一貫課程綱要総綱」は表のようになっていきます。

「節数」は時数、「学習総節数」は総授業時数、「領域学習節数」は教科授業時数、「弾性学習節数」は学校が独自に教育内容を決めて実施する時数を意味しています。

日本よりも授業時数や教育内容にも学校裁量の幅が大きく、中正國小では小学四年生以上で、「弾性」の時間を活用し、英才教育に準じた教育を行っています。一組から六組は

年級	学習総節数	領域学習節数	弾性学習節数
一	22-24	20	2-4
二	22-24	20	2-4
三	28-31	25	3-6
四	28-31	25	3-6
五	30-33	27	3-6
六	30-33	27	3-6
七	32-34	28	4-6
八	32-34	28	4-6
九	33-35	30	3-5

台湾の教育時数

普通クラスですが、七組は吹奏楽クラス、八組は古典楽器クラス、九組は舞踏クラス、十組は野球クラスとして教育課程を組み、本校が行う日本語指導は、「弾性学習節数」の一部として取り扱われています。

**中正國小から本校への中国語指導**

本校の中国語の授業は、指導要領に示された時間以外の時間として、小一で週二時間、小二から中三は週一時間実施しています。

小一と小二是、初級と中級の二コース、小三から中三は初級、中級、上級の三コース実施しています。本校では中国語の講師を二名雇用していますが、三コース開設するには一名不足します。そこで、小三から小六

までの上級コースに中正國小より中国語の先生に来ていただいています。中学部は内容も高度になるので、語学学校より講師を派遣してもらっています。中正國小には、「志工團」というボランティア登録制度があり、退職校長や退職教員が多く登録しています。本校の中国語の先生は、この「志工團」より四名派遣してもらい、各自一週間に一時間の中国語を担当していただいています。

中正國小より派遣していただいている中国語の先生は、年間を通して本校の授業を担当してくださる方もいますが、年度途中で別の先生に替わる場合もあり、指導の一貫性という面では多少課題もあります。

学んでいる子どもたちからは「劇やゲームもあって楽しい」「生活に役立つ」「台湾の教科書が興味深い」等の感想が寄せられています。

**今後の展望と課題**

① 今までの取組の成果

本校の児童生徒は中国語の授業だけでなく、日常的に中正國小児童などから中国語を聞いているため、かなり高い中国語能力を持っています。また、毎日台湾人の児童や教職員とともに同一校舎内で生活しているため、台湾人の人々が身近にいて当

り前という感覚を持っています。

本校の児童生徒は、グローバル人材として成長していく基礎を既に十分備えているといえます。中正國小でも中国語の朝の挨拶「ザオ(早)」以外に、「お早う」と日本語で挨拶する児童も確実に増えており、中正國小教職員や保護者、地域の方々の温かな視線は確実に増えてきています。

本校が中正國小の中にあることや本校が日本語指導を行っていることによる効果は、小さなものであるかもしれませんが、日本人や日本に理解を示してくれる台湾の方々を増やすことに確実に役立っています。

② 今後の高雄日本人学校

高雄に進出している日系企業は、機械や金属といった重工業が中心で、新しい企業の進出はあまり望めません。さらに、台湾新幹線が開通して、台北—高雄間が一時間三十分で結ばれたことから、駐在員を台北に集約し、出張ベースで高雄に来るという傾向が強まっています。

今後、当地の企業駐在員が減ることとはあっても、大幅に増加することは考えにくいことから、本校は今後も、現在の中正國小内で学校を維持していくことになると予想されます。

③ 交流活動継続の必要性

中正國小内で開校して五年目に入

りましたが、大きな事故等はなく、両校の教育活動も特に問題なく安定して行われています。

中正國小の児童や教職員、保護者はもちろん、地域の方々にも、高雄日本人学校が中正國小内にあること、前という認識が定着してきました。

今後とも、日本語及び中国語の相互指導や各学年の児童の交流活動、朝の「あいさつタッチ運動」など、今まで継続してきた活動を続けていかなければならないと考えています。

④ 課題

中正國小内での本校の学校運営は、特に問題なく行われていますが、問題が少ないが故に、先輩の派遣教員の熱意によって続けられてきた交流活動がマンネリ化しないように十分に注意していかねければなりません。また、重要な交流活動の柱である中正國小への日本語指導は、派遣教員個人の中国語習得の努力や個人の費用負担によって支えられています。

AG5では、運営委員会と打ち合わせ、現在の取組が校務として位置づけられ、中正國小及び高雄日本人学校両校の教員・児童生徒のグローバル化につながるよう、高雄日本人学校のために具体的な支援策を検討していきたいと考えています。